

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	<b>Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 2: Curettage-electrodesiccation</b>	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート 2 : C & E	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ18-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	1820764	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号		
	ページ	720-726	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1991	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf A	
	その他著者 2	Grin C	
	その他著者 3	Bart R	
	その他著者 4	Levenstein M	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の 8項目	目的	C & E 治療後の基底細胞癌の再発に関与する因子を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	初回治療基底細胞癌 2314 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	Curettage-electrodesiccation	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 ( 1 )
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
主な結果	比例ハザードモデルによる多変量解析では、腫瘍径、高危険部位（鼻、鼻周囲、鼻唇溝、耳介、下顎、口囲、眼囲）、中危険部位（頭部、前額、耳前、耳後、頬）、治療時期（1955-1963）が独立した有意な再発予測因子であった。頸部、体幹、四肢の低危険部位では腫瘍径に関わらず C & E は有効で、5年再発率は 3.3%であった。中危険部位で 10mm 未満の場合の 5年再発率は 5.3%、高危険部位で 6mm 未満の場合は 4.5%であった。		
結論	6mm 未満の基底細胞癌に対しては、高危険部位であっても C & E は有用である。		
備考			
レビューワー コメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) ニューヨーク大学による一連の報告の 1つである。本邦では C & E は普及していないが、症例の選択によっては有用性が示唆されている。症例数が多くフォロー期間も長いいため、再発危険因子のデータとしても信頼度は非常に高い。	